

azbil

第92期 株主の皆様へ

2014年3月期

上半期事業報告書

2013年4月1日～2013年9月30日

証券コード: 6845

アズビル株式会社

(旧: 株式会社山武)





代表取締役社長

曾根 寛純

代表取締役会長

小野木 聖二

新中期経営計画の目標となる創業110周年に向けて 事業領域の拡大と体質改善に邁進

厳しい経営環境のなか 新規事業領域を立ち上げ増収を実現

株主の皆様におかれましては、平素より格別
のご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、当上半期におけるわが国の経済は、政
府の経済政策や日銀の金融緩和策を背景に、
輸出企業を中心に業績の改善が見られる等緩
やかに回復してまいりました。海外経済におき
ましては、米国経済は回復傾向にあるものの、

中国等新興国の経済成長の鈍化や欧州経済の
停滞等もあり、今後の情勢については不透明
な状況にあります。

こうした経済環境のなか、当azbilグループ
を取り巻く事業環境は、回復基調の市場もある
ものの、国内製造業の設備投資は全般として
低迷し、厳しい状況が続きました。

そのなかでazbilグループは、新たなソリュー
ション展開として「ライフサイエンスエンジニア



リング(LSE)事業*]の立ち上げや、海外の展開地域の拡大と質的な向上等事業拡大に向けた施策を実行するとともに、採算性重視の取組みや経費の効率的な使用に努め、体質強化に取り組みました。

この結果、LSE事業を担うアズビルテルスター有限会社及びその子会社を新規連結したライフオートメーション事業を中心に全体として伸長し、azbilグループの当上半期の売上高は、前年同期比6.2%増加の1,112億8千6百円となりました。

損益面につきましては、原価率の改善は着実に進捗しましたが、複数企業を新規連結したことによるのれん償却費用の増加等の影響や、

退職給付費用の一時的な増加といった要因により、営業利益は24億5千7百万円(前年同期比30.7%減)となり、経常利益は主に為替差益を要因として27億6千1百万円(前年同期比16.5%減)、四半期純利益は10億2千万円(前年同期比31.5%減)となりました。

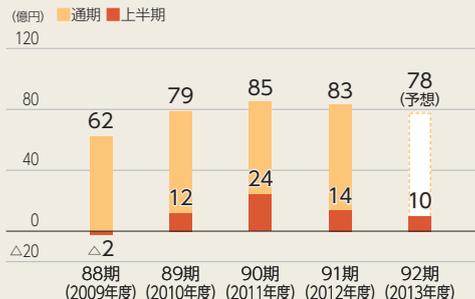
3つの基本方針のもと 着々と事業施策が進展

azbilグループは、創業110周年となる2016年度を最終年度とする新たな中期経営計画を策定し、さらに、2021年度に向けた長期目標を設定しました。その目標達成に向けて、「技術・製品を基盤にソリューション展開で『顧

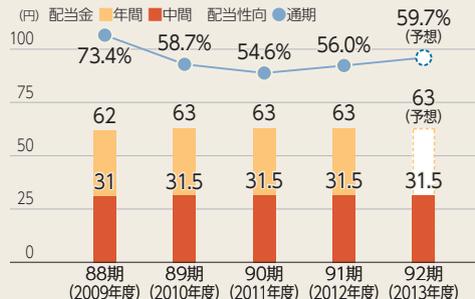
客・社会の長期パートナー』へ、「地域の拡大と質的な転換による『グローバル展開』、「体質強化を継続的に実施できる『学習する企業体』を目指す」の3つを基本方針として掲げ、次ページ図中にある取組みを進めてきており、この上半期においても様々な成果を見ることができました。

ビルディングオートメーション事業においては、節電・省エネ提案による既設建物の改修やサービスの分野が着実に伸長しました。海外においても、国際空港等の現地ランドマーク案件の獲得が進みました。アドバンスオートメーション事業においては、半導体等の装置メーカー向けの新製品や計装提案、新たなパートナー企業

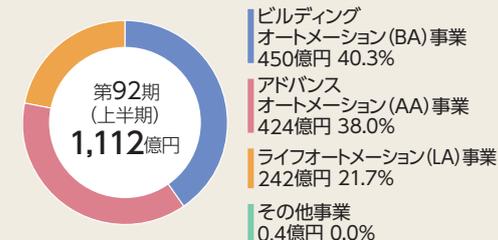
当期純利益



1株当たり配当金・配当性向(連結)



セグメント別売上高構成比



※各セグメントにはセグメント間の内部取引(5億円)が含まれています。

を得ての製品ポートフォリオの強化により事業領域が拡大し、メンテナンス拠点の整備・拡充によりソリューション型のバルブ事業が海外で進展しました。ライフオートメーション事業においては、前述の新たに加わったLSE分野の基盤強化が進展したことに加えて、ガス・水道メータ分野における体質改善と事業領域の拡大、積極的な営業施策展開による住宅用全館空調システムの受注伸長が実現しています。

**株主の皆様へ
～通期見通し、配当について**

azbilグループは、3つの基本方針の下、海外やエネルギーマネジメント、安心・安全といった市場機会を捉え、着実な成長を目指してまいります。この展開にあたり、事業体質改善のための費用と新事業拡大のための先行投資が発生すること、また、当上半期における連結業績結果等を踏まえて、従来の業績予想の見直しを行いました。

2014年3月期連結業績予想を本年5月10日公表の期初予想に比べて、売上高は計画ど

おりの2,500億円といたしますが、損益面では、営業利益を5億円(3.5%)減少の137億円、経常利益を3億円(2.2%)減少の132億円、当期純利益を2億円(2.5%)減少の78億円に修正いたします。

配当につきましては、株主の皆様への利益還元を経営の重要課題の一つと位置付けた利益配分に関する基本方針に基づき、1株当たり31.5円の間配当を実施いたしました。期末配当につきましても、期初の公表予想どおり1株当たり31.5円、年間では1株当たり63円の配当予想とさせていただきます。

azbilグループは、「人を中心としたオートメーション」の探求を通じ、お客様とともに価値を創造することで企業価値を向上させ、株主の皆様のご期待にお応えしていきたいと考えております。今後ともご支援のほど、よろしくお願い申し上げます。

※2013年1月、製薬工場、研究所、病院向けの製造装置、環境装置等の開発・製造・販売を行っているTelstar,S.A.(現:アズビルテルスター有限会社)に資本参加し、子会社化いたしました。人の健康に貢献する市場に向け、「オートメーション技術」に着想を得た、次世代の製造装置と環境システムの統合ソリューションを提供する「LSE事業」を新たに立ち上げ、展開を開始いたしました。



連結貸借対照表の要旨

(単位：百万円)

科 目	前期末	当上半期末
	平成25年3月31日現在	平成25年9月30日現在
資産の部		
流動資産	181,714	167,445
固定資産	61,704	62,610
有形固定資産	24,677	24,404
無形固定資産	12,625	12,830
投資その他の資産	24,401	25,375
資産合計	243,418	230,055
負債の部		
流動負債	82,828	69,259
固定負債	19,393	19,115
負債合計	102,221	88,374
純資産の部		
株主資本	136,217	135,027
資本金	10,522	10,522
資本剰余金	17,197	17,197
利益剰余金	111,141	109,952
自己株式	△ 2,644	△ 2,645
その他の包括利益累計額	2,824	5,026
新株予約権	2	2
少数株主持分	2,152	1,624
純資産合計	141,197	141,680
負債純資産合計	243,418	230,055

連結損益計算書の要旨

(単位：百万円)

科 目	前上半期	当上半期
	平成24年4月 1日から 平成24年9月30日まで	平成25年4月 1日から 平成25年9月30日まで
売上高	104,761	111,286
売上原価	69,664	73,870
売上総利益	35,096	37,416
販売費及び 一般管理費	31,549	34,958
営業利益	3,547	2,457
営業外収益	326	667
営業外費用	567	363
経常利益	3,307	2,761
特別利益	2	45
特別損失	143	184
税金等調整前 四半期純利益	3,165	2,622
法人税、住民税 及び事業税	449	714
法人税等調整額	1,107	902
少数株主損益調整前 四半期純利益	1,608	1,004
少数株主利益	117	△ 15
四半期純利益	1,491	1,020

連結キャッシュ・フロー計算書の要旨

(単位：百万円)

科 目	前上半期	当上半期
	平成24年4月 1日から 平成24年9月30日まで	平成25年4月 1日から 平成25年9月30日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー	7,371	5,805
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 1,999	△ 1,300
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 3,457	△ 3,157
現金及び現金同等物に係る換算差額	20	928
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	1,935	2,275
現金及び現金同等物の期首残高	55,355	56,050
新規連結に伴う現金及び 現金同等物の増加額	49	36
現金及び現金同等物の四半期末残高	57,340	58,362

連結包括利益計算書の要旨

(単位：百万円)

科 目	前上半期	当上半期
	平成24年4月 1日から 平成24年9月30日まで	平成25年4月 1日から 平成25年9月30日まで
少数株主損益調整前四半期純利益	1,608	1,004
その他の包括利益	△ 861	2,417
その他有価証券評価差額金	△ 1,112	933
繰延ヘッジ損益	0	△ 0
為替換算調整勘定	249	1,484
四半期包括利益	746	3,422
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	628	3,222
少数株主に係る四半期包括利益	117	199

ビルディングオートメーション事業(BA事業)

売上は国内が微減ながら、海外は伸長

売上高 **450**億円
(前年同期比:0.5%減)

セグメント(営業)利益 **15**億円
(前年同期比:13.4%減)

※各数値にはセグメント間の内部取引高が含まれております。

主に大型再開発案件の切れ間にある新設建物分野での減少により国内売上が減少し、海外で増収となりましたが、BA事業全体としては微減となりました。

国内市場におきましては、納入実績の蓄積をもとにサービス事業が引き続き着実に推移しましたが、上記のとおり新設建物の分野での売上が減少し、国内全体で減収となりました。なお、既設建物の分野におきましては、前年同期に大型案件が計上されていた影響等からほぼ前年同期並みとなりましたが、節電・省エネ、すなわちエネルギーマネジメントに対する需要が顕在化しており、長年におよぶ現場でのデータ蓄積と施工力を強みとする省エネ提案関連の売上は堅調に増加いたしました。

海外市場におきましては、ローカル建物

の開拓に注力しており、この施策が奏功し、売上が伸長いたしました。施工・エンジニアリングに関わる会社を新規連結した影響により、中国で売上が大きく拡大した他、タイ、シンガポール、インドネシア等の地域におきましても売上が伸長いたしました。

この結果、BA事業の当第2四半期連結累計期間の売上高は、450億9千2百万円と前年同期に比べて0.5%の減少となりました。損益面につきましては、退職給付費用の一時的な増加があるものの、施工でのコスト改善やジョブ管理の強化により収益性は改善しております。しかしながら、のれん償却費用を含む新規連結の影響等から、セグメント利益(営業利益)は、15億3百万円と前年同期に比べて13.4%の減少となりました。

●売上高・セグメント(営業)利益



納入事例 株式会社札幌副都心開発公社様

新さっぽろアークシティにおけるESCO事業を開始

当社及び芙蓉総合リース株式会社による共同グループは、札幌副都心開発公社様が所有・運営する複合商業施設「新さっぽろアークシティ」において民間資金活用型ESCO事業※を本年4月よりサービスを全面開始しました。



今回の新さっぽろアークシティでは、老朽化した受電設備・熱源設備・空調設備・照明設備の更新に加え、BEMS導入による各種制御システムの最適化や運転管理の効率化、運用改善等の省エネルギー施策を15年間にわたって実施します。同施設における年間の省エネルギー効果は、一次エネルギー換算で11%、CO₂削減率は12%を予定しています。既に一部サービスが開始されており、当初の計画を上回る大きな効果を実現しております。

私が提案しました

アズビル(株) ビルシステムカンパニー
北海道支店営業グループ 後藤卓哉



最優秀提案事業者に選定されてから竣工までおよそ2年半を要し、工事に携わった会社は100社を超える大事業でした。最新の制御技術の導入はもちろんのこと、設備の大規模な省エネ化更新、運転維持管理(常駐管理)等、アズビルの総力を結集した現場です。省エネルギー効果は予定を大きく上回る結果が出ており、アズビルはお客様が抱える設備に関する様々な課題をESCOにより解決し、これからもお客様の良きパートナーとしてさらなる信頼を得られるよう努力してまいります。

※ ESCO事業:光熱水費や維持管理費用の削減分で省エネルギーのための設備改修や維持管理・省エネ効果検証にかかる費用を削り、さらに削減効果を保証する事業であることが特徴。

アドバンスオートメーション事業(AA事業)

新製品・ソリューションや海外市場が増加

売上高 **424億円**
(前年同期比:0.4%減)

セグメント
(営業)利益 **12億円**
(前年同期比:35.7%減)

※ 各数値にはセグメント間の内部取引高が含まれております。

国内製造業の設備投資低迷の影響を受け、国内売上が減少し、海外で増収となりましたが、AA事業全体としては微減となりました。

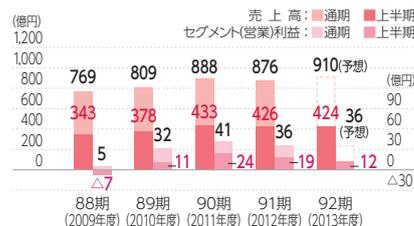
国内市場におきましては、半導体製造装置メーカー等の市場において需要が緩やかな回復傾向をみせておりますが、全体としては、引続き低調に推移いたしました。こうした状況に対して、新製品の投入やソリューションでの事業開拓等に取り組み、新規連結の影響もあって、装置メーカー向けの各種制御機器の売上は、増加いたしました。一方、エネルギーや安定操業に向けた投資、更新需要等は底堅いものの、これまで堅調であった高機能素材をはじめとした化学市場の新規設備投資の抑制等が影響し、各種プラント向けの現場型計器やコントロールバルブ、システム製品の売上が減少し、国内

全体で減収となりました。

海外市場におきましては、欧米における装置メーカー向け制御機器の販売拡大に加え、流量計の開発・販売会社の新規連結及び為替の影響もあり、各地域で売上が増加、海外全体として増収となりました。

この結果、AA事業の当第2四半期連結累計期間の売上高は、424億5千4百万円と前年同期に比べて0.4%の減少となりました。セグメント利益(営業利益)は、経費の効率的な使用、抑制に努めたものの、国内での減収及び退職給付費用の一時的な増加等もあり、12億4千9百万円と前年同期に比べて35.7%の減少となりました。

● 売上高・セグメント(営業)利益



※ 91期より、従来「その他」に含めておりました事業の一部を「AA事業」の区分に変更しております。90期については前年同期の数字を変更後のセグメント区分に組み替えて表記しておりますが、89期以前については組み替えておりません。

納入事例

日本エイアンドエル株式会社 愛媛工場様

製造現場の価値を定義して、さらなる生産革新を実現

ABS樹脂やラテックスを生産する日本エイアンドエル様の製造現場では、熟練オペレータから若手担当者への技術伝承を行い、安全かつ高効率な作業環境を実現していくために生産革新のさらなるレベルアップが課題となっていました。そこで、プラント運転制御や運転管理に関する総合的なコンサルティングを行っているアズビル(株)を採用し、現場担当者の「気づき」の質を適正化し、迅速かつ的確な判断と対応操作を促すことを念頭に、最適化されたアラームに対応した操作手順を標準化しました。これによりオペレータのスキルに左右されない作業環境が実現しました。



私が提案
しました



アズビル(株) アドバンスオートメーションカンパニー
四国営業所 貝原幸一

アズビルの担当者が整理役を務めながら、各製造現場での意見交換を通じて、運転上の課題を抽出し、その解消には何が必要かという検討を進めました。「運転履歴データから特徴的な運転傾向を抽出し、そこに潜む課題と改善策、改善コスト、改善可能時期、効果を一括にまとめ上げることで明確な目標をもって意識を高く持ち、改革に取り組むことができた」とご評価をいただきました。今後も継続してアラームの最適化や制御改善、生産革新の活動をお客様とともに推進していきたいと思っております。

ライフオートメーション事業 (LA事業)

新規事業を立ち上げ、売上は大きく伸長

売上高 242億円
(前年同期比: 38.4%増)

セグメント (営業)利益 △3億円
(前年同期営業利益: △1億円)

※ 各数値にはセグメント間の内部取引高が含まれております。

ガス・水道メータの分野におきましては、エネルギー供給ラインでのソリューション展開等に取組んでおりますが、需要サイクルの影響からガスメータの売上が減少いたしました。水道メータについては、採算性の改善及び市場深耕に向けた取組みにより、売上は若干の減少となりましたが、収益性は改善いたしました。

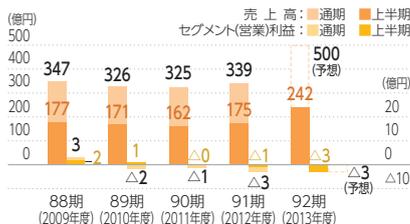
健康福祉・介護の分野におきましては、高齢化の進展に伴い市場は拡大しておりますが、地方自治体における福祉関連予算の削減等により、厳しい事業環境が続いております。これに対処するため、営業拠点の拡大、サービスメニューの拡充等の施策に取組み、売上は拡大いたしました。

住宅用全館空調システムの分野におきましては、引続き営業・開発体制の強化に取組み、住宅メーカーと個人施主双方に向けた積極的な営業施策を展開した結果、売上が伸長いたしました。

第1四半期連結会計期間より新たに加わったライフサイエンスエンジニアリング (LSE) の分野におきましては、対象とする海外の製薬市場が好調に推移しており、こうした市場に向けて各種装置等を提供するアズビルテルスター有限会社の新規連結により売上は大きく増加いたしました。

この結果、LA事業の当第2四半期連結累計期間の売上高は242億4千7百万円と前年同期に比べて38.4%の増加となりました。損益面では、ガス・水道メータの分野で収益性が改善いたしました。LA事業全体では、事業拡大のための体制整備費用やのれん償却費用を含む新規連結による影響により、セグメント損失 (営業損失) は3億6百万円 (前年同期は1億4千4百万円のセグメント損失 (営業損失) となりました。

● 売上高・セグメント (営業) 利益



Ton Capella アズビルテルスター社長、国際的な製薬業界組織である「PharmaProcess」の代表に就任

azbilグループにてライフオートメーション事業を担うアズビルテルスターのTon Capella社長が、このたび製薬業界の大手企業や団体等の合意により設立された製薬業界を支援する国際的な組織である「PharmaProcess」の代表に就任しました。



手前が「PharmaProcess」のオープニングセッションで挨拶するTon Capella社長

10月29日、30日にスペイン・バルセロナにて開催された「PharmaProcess」は、欧州初の製薬プロセス全体をカバーするフォーラムで、業界の最新の技術情報や医薬品製造における収益性最善のためのプロセスの最適化等について議論・検討されました。

製薬業界は経済的・政治的な存続、そして遺伝子治療・個別治療への発展に対する不安を抱えています。さらに現状では、伝統的な化学合成の低分子医薬品から近代的なバイオ医薬品への移行も期待されたほど早くは進んでいません。このため、製薬業界は、信頼のおける安全かつ効率的な医薬を実現するソリューションをさらに深めていく必要があります。

こうした中で発足した「PharmaProcess」について、Ton Capella社長は以下のとおり語っています。

「「PharmaProcess」は、製薬業界内を国際的な視点で課題を捉え、変革しようという目的から誕生しました。業界の専門家にとって必要不可欠な会合であり、ハイレベルかつ国際的な中長期的なプロジェクトを扱っていくことを目標としています。」

グローバル展開 ~ Global Operations ~

新たなパートナーと連携し、海外売上が拡大

海外売上高 211億円
(前年同期比:120.4%増)

海外売上比率 19.0%
(前年同期比:9.8ポイント増)

※ 海外売上高は各セグメントの内数を合計したものです。現地法人と直接輸出の売上のみを集計しており、間接輸出は含んでおりません。

当第2四半期連結累計期間における世界経済は、新興国経済成長の鈍化等事業環境の不透明な状況が続いた反面、米国経済は回復傾向、また弱気みではあるものの中国を含むアジア地域での景気は底堅く推移いたしました。このような中、新中期経営計画に基づき、地域の拡大を推進するとともに、ソリューションビジネスへの質的な転換を図るべく、新たに提携・資本参加したパートナー企業との密な連携により、事業展開を進めてまいりました。

その結果、BA事業においては、アジア、特に中国において、資本参加した北京銀泰永輝智能科技有限公司を中心にローカル建物市場の開拓が進み、大きく増収となりました。AA事業においては、装置メーカの需

要回復、及びアズビルポルテック有限会社を新規連結したこと等により、欧米を中心に売上が伸長、為替の影響も加えて、増収となりました。またLA事業においては、資本参加したアズビルテルスター有限会社を基盤にグローバルでの事業展開を開始いたしました。全体としては、前年同期比115億円増の211億円となりました。

今後も欧州経済の低迷や中国を始めとする新興国経済の先行き不透明な事業環境が続く中、持続的な成長を創出する事業基盤としてグローバル視点での開発・生産・調達・ロジスティックの体制構築を図ることにより、3つの基本方針の1つである「グローバル展開」をBA、AA、LA事業ともに強化・加速してまいります。

● 海外売上高・売上比率



アズビルプロダクションタイランドにて出荷式開催

azbilグループの生産現地法人「アズビルプロダクションタイランド株式会社」にて、8月6日、製品の出荷式が執り行われました。

アズビルプロダクションタイランドは、今年2月にタイ・チョンブリー県に立地するアマタナコン工業団地内に設立されました。当社では、グローバルでの最適なロジスティック整備、地域特性に合わせた製品対応の強化に向けた生産体制の再編を進めており、アズビルプロダクションタイランドの設立により、azbilグループの生産拠点は、日本、中国、サウジアラビアにタイが加わりました。

アズビルプロダクションタイランドでは、2月の設立時より、8月の出荷に向けた取組みを進めてきており、この度デジタル指示調節計SDC15を計画どおり出荷いたしました。

今後はデジタル指示調節計に加え、空調用コントローラ等の生産にも着手し、お客様のグローバル化に合わせ、現場に密着した生産体制を構築します。



News & Topics

壁掛け型BAシステムを販売開始

建物全体の省エネルギーや節電を実現する機能を強化した、地球環境保全に貢献するビルディングオートメーション(BA)システム[savic-netFX2 compact™(サービックネットエフエックスツーコンパクト。以下FX2compact)]を発売しました。FX2compactは最大管理点数2,000点、延床面積20,000m²規模以下の中小規模建物向けの壁掛け型BAシステムです。液晶タッチパネルから空調・照明等各設備の監視・制御等の簡単操作を実現します。さらに、最先端の電力デマンド制御、熱源機台数制御、節電運転制御等の豊富な省エネルギーアプリケーションを搭載しており、これらを組み合わせることで電気・照明装置や空調熱源から搬送系統、居室内環境まで建物全体の省エネ・節電の推進が可能になります。



天然ガスカロリメーター「GasCVD™」の国内販売を開始

GasCVDは、高精度かつ、既存製品にはない小型・軽量・低価格・高速応答を実現した天然ガス専用のカロリメーターです。2012年6月に、天然ガス取引が盛んなヨーロッパ向けに発売しましたが、今回、日本のTIS耐圧防爆認証を取得し、熱量測定 of 演算式を追加することで、国内市場で要求される13Aガスにも適応が可能となりました。さらに、応答時間を約30秒から約5秒に大幅改善したモデルの新規投入により、高速な応答が要求される天然ガス受入基地での熱量調整用途で使用できるようになりました。

りました。シェールガス採掘等を背景としたガス種の多様なニーズに対応し、重要度の高まる天然ガスの流通に貢献いたします。



アズビルあんしんケアサポート、熊本市で24時間の訪問介護サービスを開始

azbilグループで健康福祉・介護事業を展開するアズビルあんしんケアサポート株式会社は、熊本市東区の介護サービス事業所「かたくり健軍」で、介護が必要な在宅高齢者に24時間体制でサービスを提供する「定期巡回・随時対応型訪問介護看護」を開始しました。日中・夜間を通じて利用者宅を定期巡回・訪問し、在宅高齢者や介護をするご家族が心身ともに安心していきいきと生活できる支えとなるよう取り組んでいます。アズビルあんしんケアサポートは25年以上にわたり業界トップシェアの緊急通報サービスと、1都3県で展開する介護サービスを主力事業とし、熊本市でも緊急通報サービス、介護

サービス(居宅介護支援・訪問介護・福祉用具レンタル・販売の各事業)を展開しています。



中国市場向け電磁流量計を中国・大連で生産開始

中国のプラントや工場のプロセスで使用される電磁流量計のうち、汎用の流量計2機種を中国・大連で生産することとし、生産・販売を開始しました。当社グループ会社であるアズビル機器(大連)有限公司で生産を行い、上海アズビル制御機器有限公司が販売します。当社ではこれまでも流量計の一部機種を大連で生産していましたが、今回、中国市場の動向に合わせ、化学・鉄鋼を中心に工業用水等汎

用の用途でニーズの高い2機種を追加しました。生産体制を強化し、部品調達から生産までを一貫して中国で行うことにより、従来の日本国内での生産の場合と比較して、低価格かつ、短い納期でお客様に提供することが可能になりました。上海アズビル制御機器有限公司では、今回追加した機種を含め電磁流量計全体の販売を初年度でこれまでの倍増、2年後に3倍増を見込んでいます。

「見える化」を推進するエネルギー重要指標表示パッケージを販売開始

「見える化」をさらに進めた「見える化」という省エネの新コンセプトにより、社員一人ひとりのやる気の結集で省エネを実現することを目的としたエネルギー重要指標表示パッケージ「ENEOPTtopview(エネオプトトップビュー)」を発売しました。企業内の省エネの専門家である環境推進部門を中心として「見える化」システムを活用し、省エネ活動で成果を上げて来ましたが、長期的なエネルギー不足や環境貢献に対応していくためには社員全員の協力が重要です。「見える化」システムにより収集したデータを活用し、「ENEOPTtopview」による「見える化」で、経営層、エネルギー管理部門、一般社員に状況を見せ、それぞれの立場に応じた「気づき」、「行動」を促すことにより、全員で実践する省エネ行動につ

ながめます。例えば、電力総量を削減する目標を立てた場合、「ENEOPTtopview」の画面に電力総量の数値とランプを表示しておき、目標電力量を超えそうな場合にはランプが赤色に色を変えて注意を促します。社員一人ひとりはその見てスイッチオフや空調の温度変更を行う等、きめ細かな自発的行動につながります。



アズビルかるた 40作品が決定

この4月から企業広告で展開し、7月からは広く社内外より公募していたazbilグループの事業内容や顧客への提供価値等を表現した「アズビルかるた」の句 全40句が決定しました。特に優れた作品は最優秀賞、優れた作品3点を優秀賞とし、さらに最終審査で外部審査員より推薦のあった1点を審査員特別賞に選定しました。

今回の公募での応募総数は1,988に上り、その中からかるたとなる句を選定する最終審査を9月24日に当社本社にて開催しました。今回選定した40句と、既に企業広告で展開中のア・ズ・ビ・ルを加えたオリジナルの「アズビルかるた」を制作し、年末年始のノベルティとして活用する予定です。

なお、すべての入賞作品を当社ホームページにて公開しています。



<http://www.azbil.com/jp/>

概要

商号 アズビル株式会社

英文商号 Azbil Corporation

創業 明治39年(1906年)12月1日

設立 昭和24年(1949年)8月22日

資本金 105億2,271万6,817円

従業員数 5,322人(連結 9,683人)

事業内容 azbilグループは、人々の安心・快適・達成感と地球環境への貢献を目指す「人を中心としたオートメーション」を追求し、建物市場でビルディングオートメーション事業を、工業市場でアドバンスオートメーション事業を、ライフライン、ライフサイエンス研究や健康等の生活に密着した市場において、ライフオートメーション事業を展開しております。

事業所

▶ 本社

〒100-6419

東京都千代田区丸の内二丁目7番3号(東京ビル)

▶ ビルシステムカンパニー

東京本店、北海道支店、東北支店、北関東支店、茨城支店、東関東支店、横浜支店、長野支店、中部支社、北陸支店、関西支社、中四国支店、九州支店、その他全国営業所等

▶ アドバンスオートメーションカンパニー

北海道支店、東北支店、北関東支店、東京支社、中部支社、関西支社、中国支店、九州支社、その他全国営業所等

▶ 工場等

藤沢テクノセンター、湘南工場、伊勢原工場、秦野工場

▶ 海外支店

中東支店、アブダビ支店

株式の状況

発行可能株式総数…………… 279,710,000株

発行済株式総数…………… 75,116,101株

株主数…………… 10,301名

所有者別状況



本上半期事業報告書は、次により記載しております。

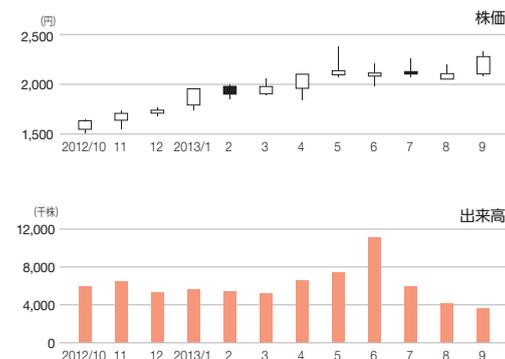
- 記載金額は、表示単位未満の端数を切り捨てて表示しております。
- 千株単位の記載株式数は、千株未満を切り捨てて表示しております。

大株主

株主名	所有株式数(千株)	持株比率(%)
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	5,800	7.85
明治ア田生命保険相互会社	5,214	7.06
ステート ストリート バンク アンド トラスト カンパニー	4,388	5.94
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	3,779	5.11
資産管理サービス信託銀行株式会社 退職給付信託 みずほ信託銀行口	2,315	3.13

(注)持株比率は自己株式(1,262,791株)を控除して計算しております。

株価と出来高の推移



役員

取締役



代表取締役会長
執行役員会長
小野木 聖二
azbilグループ(aG)全
般総括担当



代表取締役社長
執行役員社長
曾禰 寛純
CEO、aG全般統括、グ
ループ監査部、経営企
画部担当



取締役
執行役員専務
佐々木 忠恭
社長補佐、aG-CSR、内部
統制、施設・事業所、理財
部、人事部、総務部、法務
知的財産部、秘書室担当



取締役
執行役員常務
河合 真
aG生産機能、aG購買機
能、プロダクションマネジ
メント本部、バルブ商品
開発部担当



取締役
執行役員常務
不破 慶一
ビルディングオートメー
ション(BA)事業、aG営業シ
ナジー担当、ビルシステム
カンパニー(BSC)社長委嘱



取締役
執行役員常務
岩崎 雅人
アドバンスオートメーシ
ョン(AA)事業担当、アドバ
ンスオートメーションカン
パニー(AAC)社長委嘱



取締役
安田 信
(法令上は社外取締役に
該当しませんが、当社退
社後40年以上に及び国
内外での豊富な経営経験
と見識を有し、独立性の
高い取締役であります。)



取締役
(社外取締役)
ユージン リー



取締役
(社外取締役)
田辺 克彦

監査役

常勤監査役	松 安 知比古
常勤監査役	鋤 崎 憲 世
監査役	藤 本 欣 哉 (社外監査役)
監査役	朝 田 純 一 (社外監査役)
監査役	佐 藤 英 夫 (社外監査役)

執行役員(平成25年10月1日現在)

執行役員 常 務	國 井 一 夫	ホームコンフォート事業担当、 ホームコンフォート本部長委嘱
執行役員 常 務	杉 野 芳 英	aG研究開発、aG環境負荷改革、品質保証、 全社マーケティング、安全審査部、環境推進部、 技術標準部担当、技術開発本部長委嘱
執行役員 常 務	日 高 謙 二	AA事業営業担当、AAC東京支社長委嘱
執行役員 常 務	宮 澤 光 晴	サービス事業担当、BSC東京本店長、 BSC環境ファシリテイソリューション本部長委嘱
執行役員	村 瀬 則 夫	法務知的財産部長委嘱
執行役員	新 井 弘 志	aG業務システム担当、業務システム部長委嘱
執行役員	風 戸 裕 彦	新規事業開発、ライフサイエンス エンジニアリング事業推進室担当
執行役員	鈴 木 祥 史	国際事業、ドキュメント・プロダクション部担当、 国際事業推進本部長委嘱
執行役員	田 村 春 夫	BSC関西支社長委嘱
執行役員	林 成 一 郎	BSC技術本部長委嘱
執行役員	清 水 伸 郎	AAC関西支社長委嘱
執行役員	奥 村 賢 二	AAC営業本部長委嘱
執行役員	友 永 道 宏	中国エリア統括担当
執行役員	北 條 良 光	プロダクションマネジメント本部長委嘱
執行役員	濱 田 和 康	BSC環境ソリューション、セキュリティ事業担当、 BSC環境ファシリテイソリューション本部 副本部長委嘱
執行役員	清 水 洋	全社アドバンスコントロール事業担当、 AACエンジニアリング本部アドバンスト・ ソリューション本部長委嘱

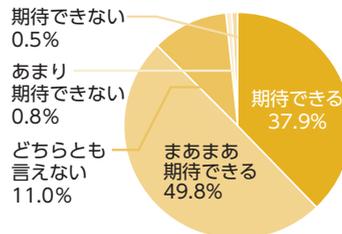
株主様アンケート結果ご報告

1,668名の方からご回答いただきました(回答率 14.9%)。ご協力いただきありがとうございました。

新中期経営計画に対して多くの方が期待をよせる

長期目標達成に向けた、2016年度を最終年度とする新しい中期経営計画に対して多く(87.7%)の株主の方から”期待できる”という回答をいただきました。皆様のご期待に応えるべく、全社一丸となって邁進いたします。

(ご参考) 中期経営計画 数値目標
2016年度 売上高 2,800億円、営業利益 220億円
【海外売上高比率20%以上】



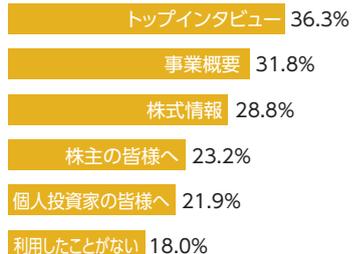
この他、多くの応援メッセージ、施策提案等をいただきました。ご提案につきましては関係部署含め対応を検討してまいります。今後ともどうぞよろしく願いたします。

株主・投資家情報(ウェブ)で社長コメントに注目が集まる

2012年4月付で小野木現会長から経営のバトンを引き継いだ曾禰社長が直近の業績レビューに加え、中期計画「発展期」後半の戦略について語った”トップインタビュー”に注目が集まりました。また、株主・投資家情報ページを”利用したことがない”という方も相当数おり、情報発信のあり方について考えさせられる内容となりました。

※ アンケート回答期間の関係から、ここでの中期計画は旧計画であり上記の新中期経営計画とは異なります。

(ご参考) 株主・投資家情報
→ <http://www.azbil.com/jp/ir/>



株式保有状況について

- 保有年数 ”5年以上” 保有がほぼ半数を占める (47.6%)
前回のアンケート結果同様、半数近くの株主様に5年以上の長期間にわたって弊社株式を保有いただいております。
- 保有理由 ”5年連続” 配当” が第1位になる (55.4%)
第2位以降は”事業内容” (39.7%)、”安定性” (38.6%)、”成長性” (31.8%)、”収益性” (24.9%)と続きました。事業の安定成長にご期待いただくとともに、その結果として継続的に実施してまいりました高い水準での安定的な配当が皆様から高く評価されていることが改めて確認できました。

株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月
定時株主総会基準日	毎年3月31日
期末配当金受領株主確定日	毎年3月31日
中間配当金受領株主確定日	毎年9月30日
単元株式数	100株

公告方法	当社ホームページ (http://www.azbil.com/jp/ir/) に掲載しております。 ただし、電子公告によることができない事故その他のやむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に掲載いたします。
株主名簿管理人及び特別口座 口座管理機関 事務取扱場所	みずほ信託銀行株式会社 本店 証券代行部 東京都中央区八重洲一丁目2番1号

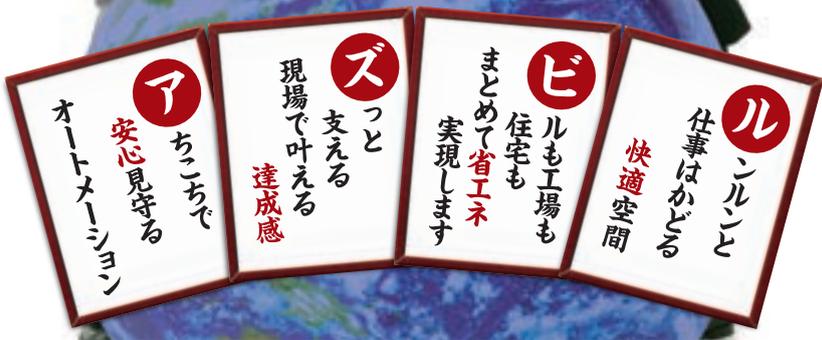
	証券会社等に口座をお持ちの場合	証券会社等に口座をお持ちでない場合(特別口座の場合)
郵便物送付先	お取引の証券会社等になります。	〒168-8507 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 みずほ信託銀行 証券代行部
電話お問い合わせ先		フリーダイヤル 0120-288-324 (土・日・祝日を除く 9:00~17:00)
各種手続お取扱店 (住所変更、株主配当金受取方法の変更等)		みずほ証券 本店及び全国各支店及び営業所 プラネットブース(みずほ銀行内の店舗) みずほ信託銀行 本店及び全国各支店
未払配当金のお支払い		みずほ信託銀行及びみずほ銀行の本店及び全国各支店(みずほ証券では取次のみとなります)
ご注意	支払明細発行については、右の「特別口座の場合」の郵便物送付先・電話お問い合わせ先・各種手続お取扱店をご利用ください。	特別口座では、単元未満株式の買取・買増以外の株式売買はできません。証券会社等に口座を開設し、株式の振替手続を行っていただく必要があります。

azbil

人を中心としたオートメーション



もっと知ってね、
アズビルのこと。



注意事項

本上半期事業報告書に記載されている当社の現在の計画、目標等の事実でないものは、将来の業績に関する見通しであり、これらは現在入手可能な情報を基とする合理的な判断に基づくもので、将来の業績を保証するものではありません。実際の業績は、様々な要因により、これら見通しと異なることがありますことをご承知おさください。



山武の名前で105年。そして2012年からはアズビルへ。
「人を中心としたオートメーション」を追求し、
新たな100年に向けて、アズビルの挑戦は続きます。
(アズビルから 優秀賞作品)

アズビルは、「人を中心としたオートメーション」で、「安心・快適・達成感」を実現し、
地球環境に貢献する株式会社 山武の新しい社名です。
オートメーション(計測と制御)の技術をもとに、建物、工場やプラント、ライフラインや
家庭などの生活に密着した市場においてお客様への提供価値の一層の向上を目指し、
日本国内はもとより、グローバル市場でも積極的に事業展開してまいります。

————— 山武からアズビルへ。

アズビルからた

検索

アズビル株式会社 〒100-6419 東京都千代田区丸の内 2-7-3 東京ビル TEL.03-6810-1006

2012年4月1日、株式会社 山武はアズビル株式会社に社名変更しました。

表紙写真

MERRY PROJECT による「MERRYあさがおプロジェクト」を開催。被災地のことを忘れないために、あさがおの花言葉「愛情の絆」で神戸と被災地を繋ぎ、笑顔をお届けしました。(アズビル株式会社 協賛)

